

日付 2025年3月25日
研修名 2024年度第7回JR広島病院 教育研修会
タイトル 看護師特定行為研修報告会～今後の活動にむけて～
氏名 飯塚 聖子
所属 化学療法センター
座長 堀江 玲子 看護部長

今年度広島大学病院で開催された看護師特定研修に、当院から私を含めた2名が参加し、両者共に全課程を終え無事に修了証を授与することができた。私が今回履修した行為は、「直接動脈穿刺法による採血」「橈骨動脈ラインの確保」「持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整」「脱水症状に対する輸液による補正」の(2区分)4行為である。当院では、特定看護師の認知度は十分ではない。今後活動を安全に円滑に進めていくためには、職員全体の理解と協力が必要である。そのため、職員全員を対象に今年度修了者2名で看護師特定行為研修報告会を開催した。

報告会では、まず特定行為とは何かを説明した。特定行為は、看護師の役割拡大を目指し厚生労働省が定めた38の行為であり、38の行為は21の特定行為区分に分けられる。特定行為は、診療の補助であり、医師が作成した手順書により看護師が行うことができる。この行為を看護師が行うことでタスク・シフティング/タスク・シェアリングも期待されている。

この行為を行うために必要なのが看護師特定行為研修であり、研修では実践的な理解力、思考力及び判断力、並びに高度かつ専門的な知識及び技能を学ぶことを目的とされている。研修内容としては共通科目、特定行為区分別科目、臨地実習があり、講義はe-ラーニングが主体となるが、研修先での集合演習や科目ごとの筆記試験もある。また、臨地実習では規定数である5症例を行為ごとに実践する必要がある。

研修期間は仕事と学習の両立に苦しむこともあったが、多くの学びは自らをスキルアップさせ自信につながったと強く感じている。今回習得した知識とスキルを実践で発揮し、特定看護師の活動の場を広げタスク・シフティングに貢献していきたいと考えている。

日付 2025年3月25日
研修名 2024年度第7回JR広島病院教育研修会
タイトル 看護師特定行為報告会 ～今後の活動にむけて～
氏名 中森 一司
所属 5階東病棟
座長 堀江 玲子 看護部長

今年度広島大学病院で開催された特定行為研修へ、当院より2名が参加した。特定行為研修を修了し、2名とも修了書を授与することが出来た。今回私が獲得した特定行為は「末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入」「持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整」「脱水症状に対する輸液による補正」の3行為である。当院では特定行為研修終了者は1名いるものの特定行為に対する認知度は十分とは言えない。そのため今後の活動に対する理解や特定行為について職員全体の理解と協力を得る必要性がある。そのため今回は職員全員を対象に看護師特定行為研修報告会を開催した。

報告会では、まず特定行為について説明、手順書により特定行為が可能となること、医師とのタスク・シフティングについて報告した。私はR7年度より特定行為である「末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入」を初めて導入するため、PICCについて説明した。PICCとは上腕静脈へ穿刺しカテーテル先端を中心静脈へ留置するカテーテル、PICC挿入を依頼することでのメリットとして医師の常務量軽減、末梢留置針を何度も穿刺する苦痛の軽減など上げられる。看護師では末梢留置針を何度も穿刺することがなくなり、末梢留置針の合併症の予防が可能となる。対象患者については腸閉塞、食欲不振、心不全、在宅栄養療法など上げられる。活動日は毎週火曜日にPICC依頼患者に対して挿入、依頼方法、依頼から実施までの流れ、挿入場所としては透視室で挿入となることを説明した。また活動するには医師の協力が必要であることを伝える事が出来た。

特定行為研修では多くの学びがあり自身のスキルアップに繋がった。今回学んだ知識、技術が実践で発揮され活動の場を広げタスク・シフティングに貢献できるよう努めていきたいと考えている。